

保津川東岸の古代亀岡

— 国営農地再編整備事業における発掘調査成果 —

1. 保津川東岸の発掘調査

小池 寛 P 1 ~ 6

2. 弥生時代の成果

藤井 整 P 7 ~ 12

3. 古墳時代の成果

中澤 勝 P 13 ~ 20

4. 歴史時代の成果

石崎 善久 P 21 ~ 28

期日：平成 20 年 6 月 28 日（土）

場所：亀岡市民ホール

京 都 府 教 育 委 員 会
亀 岡 市 教 育 委 員 会

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

保津川東岸の発掘調査

(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

係長 小池 寛

1. はじめに

亀岡市域におけるこれまでの発掘調査は、国道9号線が縦断する保津川の西岸に集中してきました。しかし、近畿農政局が、馬路町、千歳町、河原林町、保津町などが所在します保津川東岸の広い範囲で大規模な農地整備事業を行うこととなり、多数所在する埋蔵文化財所在地に対して、亀岡市教育委員会が早くから試掘調査を開始し、平成13年度から亀岡市教育委員会、京都府教育委員会、当調査研究センターで本格的に実施してまいりました。この程、現地での発掘調査がほぼ終了しましたので、どのようなことがわかり、どのような意味があるのかにつきまして、ご報告させていただきます。

2. 発掘調査でわかったこと

ここでは、主要な発掘調査の成果につきまして、時代順にまとめておきます。

縄文時代^{そうそうき}草創期の狩りに使った石器が、馬路町^{ときづか}時塚遺跡から出土し、千歳町^{くらがいち}蔵垣内遺跡では、縄文時代早期の^{おしがたもんどき}押型文土器が出土しています。土器を作り始めた頃に人々が生活していたことがわかりました。一方、馬路町^{くるまづか}車塚遺跡では、20×40×60cmの大きさの整理箱で80箱にも及ぶ大量の縄文土器が出土しました。遺物には奈良県と大阪府の府県境にある生駒山西麓からもたらされた土器や新潟県糸魚川流域からもたらされた石器なども出土しており、広い地域との交流が行われていたことも

わかりました。

弥生時代では、馬路町池尻遺跡、馬路遺跡、時塚遺跡において方形の溝がめぐる中期の方形周溝墓を多数確認しました。特に、時塚遺跡では、円形の竪穴式住居跡なども確認しており、居住する空間と墓を造る空間とに分けられていたことがわかりました。また、保津町案察使遺跡では、弥生時代後期に掘られた1,100基あまりの穴を見つけました。土器や竪穴式住居跡などの壁材として多用された粘土を採掘した穴か、民衆の墓ではないかと論議されました。

古墳時代では、畿内の中心地からもたらされた石製の腕輪が千歳町出雲武式古墳の溝の底から出土しており、子持ち勾玉が馬路町池尻遺跡から出土しました。いずれも珍しい遺物です。一方、市内の数少ない前方後円墳である保津町保津車塚古墳が、全長53mであることが判明するとともに、木製の盾形ハニワが出土しました。また、馬路町時塚遺跡では、一辺27mの時塚古墳を水田下から発見しました。溝の中から顔に限取りか入れ墨を施した盾を持つ人物埴輪が出土しました。その形相は、古墳に侵入しようとする邪悪なものを睨み付けているようで、異様さを強調するために頭部に複雑な切り込みがあります。馬路町時塚古墳群や中古墳群では、小規模な円墳や方墳を確認しており、時塚古墳や中古墳に埋葬された有力者を補佐する人々の墓であったと考えられます。

千歳町国分古墳群では、横穴式石室を埋葬施設とする31基の古墳を水田の下で確認しました。その中でも飛鳥時代に造られた国分45号墳は、墳丘の外側の石の列を八角形状に配置していることがわかりました。当時、八角形の古墳は、天皇か有力な官人にもみ築造が許された形であり、中央政府と密接に関係した有力者の墓だと考えています。奈良時代になって当地に国分寺が造営されることになった要因と深い関係があるのかもしれませんが、銀装太刀も出土しました。

奈良・平安時代の池尻遺跡では、柵と建物が計画的に配置されていたことがわかりました。建物の規模や各施設の配置状況などから一般的な集落ではなく、丹波国府などの公的機関ではないかと考えられます。池尻遺跡のすぐ西側には飛鳥時代の池尻廃寺があり、南門そのものは確認できなかったものの、金堂などの主要な施設

の配置を考えるうえで重要な成果が得られました。また、南門の南側にも掘立柱建物跡を確認しており、一帯が^{かんちやうがい}官庁街のようであったと思われます。馬路遺跡、時塚遺跡、車塚遺跡でも比較的規模の大きい^{ほったてばしらたてものもと}掘立柱建物跡を確認しており、また、千歳町には^{たんばこくぶんじ}丹波国分寺が存在することから保津川東岸に^{きやうさんいんどう}旧山陰道が縦断していたことも想定されるようになりました。

一方、馬路町^{みつかいちいせき}三日市遺跡では、流路から多量の瓦が出土しました。出土した軒丸瓦の文様には直線的な傷があり、同じ傷をもつ瓦が丹波国分寺跡からも出土していることから、丹波国分寺の瓦を^{みつかいちいせき}三日市遺跡周辺で焼いていたことがわかりました。また、馬路遺跡からは、「田中」と筆で書かれた平安時代の土器が出土しており、公的な施設が所在したと考えられます。

鎌倉・室町時代の遺跡は、奈良・平安時代以前と比べてもさほど多くはありませんが、千歳町丹波国分寺跡周辺に広がる蔵垣内遺跡では、拳大の石をたくさん集積した造成の跡や建物跡、溝を確認しました。出土遺物に中国や日本で焼かれた香炉や茶碗などとともに茶臼等も出土していることから、国分寺の子院などがあったことがわかりました。

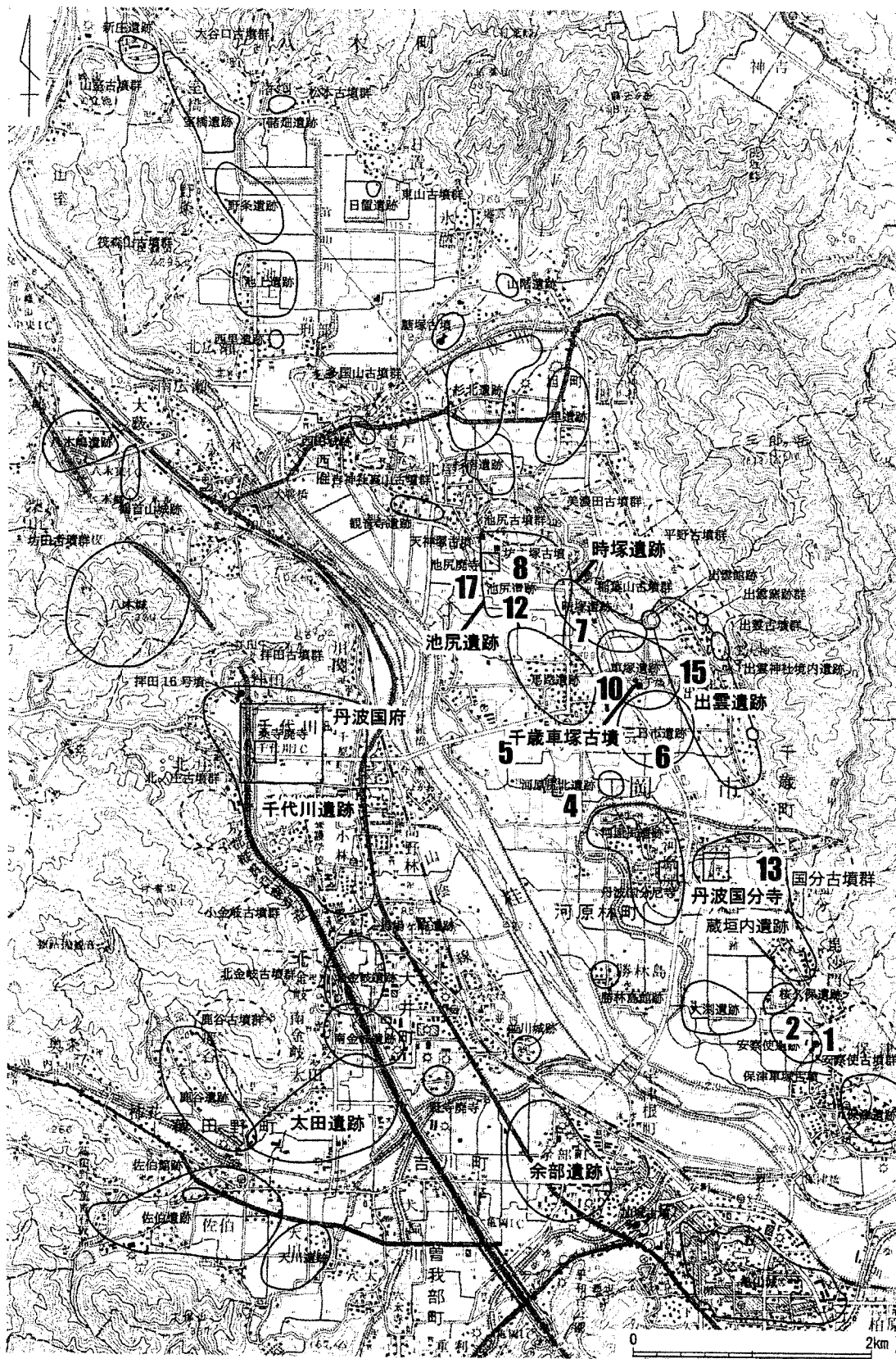
3. まとめにかえて

いかがですか？今回の発掘調査で実にいろんなことがわかったかをご理解いただけたと思います。今まで、まったくわからなかった東岸一帯の歴史が明らかになりました。今後は、さらに検討を行ったうえで地域みなさまに調査の成果をお伝えしていこうと思っております。また、教科書だけで習う歴史ではなく、地元の遺跡を通して歴史が学べるような教材として活用できるようになればと思っています。

最後になりましたが、発掘調査を進めるうえで、地権者の方々には深いご理解のもと、たくさんのご協力をいただきましたことに厚く御礼を申し上げます。

	調査年度	遺跡名	所在地	調査成果
1	平成13年度	保津車塚古墳 第2次	保津町	全長53mの前方後円墳。2重の周溝。盾形の木製品出土。→墳丘に立て並べた。
2	"	案察使遺跡 第4次	保津町	弥生時代後期の穴を1,100基確認。粘土採掘穴なのか墓穴か？未決着！
3	平成14年度	大淵遺跡第4次	保津町	縄文時代晩期の甕棺墓。
4	平成15年度	河原尻遺跡	河原林町	古墳時代の集落跡。古代の建物跡群。
5	"	馬路遺跡第3次	馬路町	弥生時代中期の方形周溝墓。平安時代の建物跡。
6	"	三日市遺跡 第3次	馬路町	丹波国分寺創建瓦を焼成した瓦窯の灰原を確認。斜面の電磁探査で窯跡の可能性大。
7	平成16年度	時塚遺跡第6次	馬路町	時塚古墳。多くの鉄器と盾持ち人形埴輪出土。
8	"	池尻遺跡第7次	馬路町	奈良時代の大規模建物跡群。丹波国府跡か？
9	"	車塚遺跡第7次	馬路町	弥生時代の方形周溝墓。古代の建物跡。
10	平成17年度	車塚遺跡第7次 B地区	馬路町	縄文時代後期の土器、整理箱に80箱が出土。生駒西麓産の土器や糸魚川水系の石器。
11	"	蔵垣内遺跡 第4次	千歳町	古墳時代前期～飛鳥時代の集落跡。奈良時代の掘立柱建物跡→国分寺と関係？
12	"	池尻遺跡第12次	馬路町	古墳時代の大溝や集落跡。子持ち勾玉出土。
13	平成18年度	蔵垣内遺跡第4次・国分古墳群	千歳町	国分古墳群が59基からなる。多量の土器と鉄器が出土。八角形墳から銀装太刀出土。
14	"	三日市遺跡9次	千歳町	縄文時代中期・晩期の土器出土。飛鳥時代の溝
15	"	出雲遺跡第8次	千歳町	新たに方墳検出。中古墳群。
16	"	時塚遺跡第15次	馬路町	弥生時代の方形周溝墓（大量の弥生土器が溝から出土）、古墳時代の円墳、奈良時代の建物跡
17	"	池尻廃寺 第11・12次	馬路町	南門の位置を推定できる屈曲する溝の確認。南門の南側に掘立柱建物跡を検出。
18	平成19年度	時塚遺跡第17次	馬路町	埋葬施設が残る方形周溝墓。円墳や方墳群。奈良時代の掘立柱建物跡
19	"	出雲遺跡第13次 出雲武式古墳	千歳町	古墳の周囲に掘られた溝から石釧（腕輪）出土
20	"	出雲遺跡第11次	千歳町	弥生時代後期の多角形堅穴式住居跡を検出。
21	"	出雲遺跡第12次	千歳町	鎌倉時代の土器が多量に出土。

主要な発掘調査成果の一覧表



亀岡市の遺跡地図(番号は、調査成果一覧表と一致)

関連遺跡年表

西暦	時代	日本のできごと・人物など	国営農地整備関係遺跡
-11000	旧石器時代	草創期	土器づくりのはじまり
		早期	
-1000	縄文時代	中期	11 蔵垣内遺跡
		後期	10 車塚遺跡
		晩期	
-300	弥生時代	前期	米づくりが日本列島各地に広がる
		中期	大きなムラの誕生
		後期	倭国乱
600	古墳時代	前期	239年 卑弥呼、中国王朝(魏)に朝貢 前方後円墳の成立
		中期	倭の五王(讃・珍・済・興・武)
		後期	横穴式石室の普及 仏教伝来 千歳車塚古墳
710	飛鳥時代	聖徳太子の活躍	2 案察使遺跡
		645年 大化の改新(蘇我氏の没落)	19 出雲武式古墳
		672年 壬申の乱(大海人皇子が大友皇子を討つ)	7 時塚古墳 15 中古墳
794	奈良時代	673年 天武天皇即位	1 保津車塚古墳 12 池尻遺跡
		694年 持統天皇、藤原京遷都	13 国分古墳群蔵垣内遺跡
		710年 元明天皇、平城京遷都	17 池尻廃寺
1192	鎌倉時代	740年 聖武天皇、恭仁宮造営	8 池尻遺跡
		741年 国分寺建立の詔	丹波国分寺・6 三日市遺跡
		749年 奈良の大仏開眼	11 蔵垣内遺跡
1338	室町時代	784年 桓武天皇、長岡京遷都	11 蔵垣内遺跡
		794年 桓武天皇、平安京遷都	21 出雲遺跡
		安倍晴明(1005年没)	
1603	安土・桃山時代	1008年 紫式部、源氏物語執筆中	
		1185年 壇ノ浦の戦い、平家滅亡	
		1192年 源頼朝、鎌倉幕府開く	
1603	江戸時代	1274年 蒙古襲来(文永の役)	
		1281年 蒙古襲来(弘安の役)	
		1338年 足利尊氏室町幕府開く	
1603	江戸時代	足利義満(1408年没)、北山殿(後の金閣寺)建立	
		足利義政(1490年没)、東山殿(後の銀閣寺)建立	
		1467~1477年 応仁の乱	
1603	江戸時代	1573年 室町幕府滅亡	
		1576年 織田信長、安土城築城開始	
		1582年 織田信長、本能寺にて明智光秀に討たれる	
1603	江戸時代	1585年 豊臣秀吉、関白即位	
		1600年 関ヶ原の戦い	
		1603年 徳川家康、徳川幕府開く	
1603	江戸時代	1615年 大阪夏の陣、豊臣家滅亡	

※付番は、一覧表及び遺跡地図と共通しています。

弥生時代の成果

京都府教育庁指導部文化財保護課

主任 藤井 整

1. はじめに

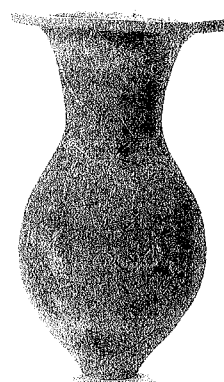
弥生時代は今から 2300～2500 年前に始まりました。当時の人々は水田でお米を作ったり、山で動物を狩ったりして暮らしていました。

亀岡市でもたくさんの弥生時代の遺跡が見つかっています。その中でも、亀岡国営ほ場整備に伴う発掘調査で、様々なことがわかったのが時塚遺跡です。時塚遺跡は馬路町にある、弥生時代の中頃（今から 2200 年前）の遺跡

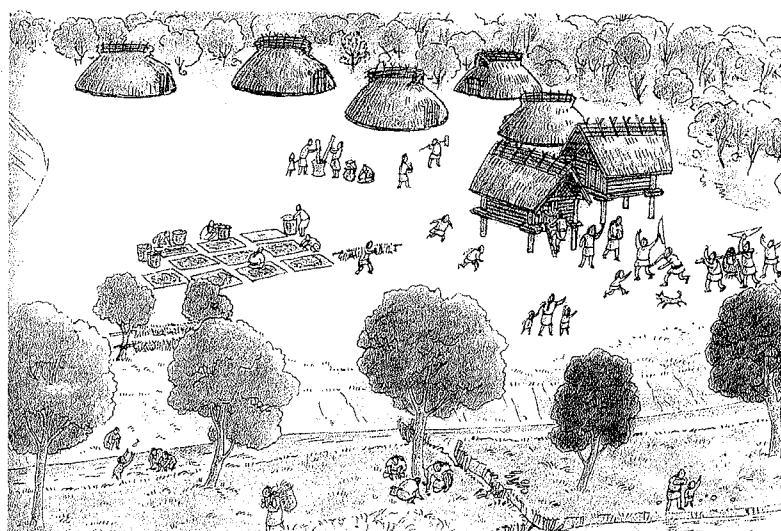
です。これまでの調査で、人々が暮らしていた家（たてあな 竪穴住居）や、お墓（ほうけいしゅうこうぼ 方形周溝墓）が見つかり、そこで使われた土器や、石器などの道具もたくさん出土しました（第1図）。集落の全体像がわかる調査は、京都府でも例が少なく、時塚遺跡の発掘調査では弥生時代の人々の生活について、いろいろなことが明らかになりました。

右の図は弥生時代の生活の様子を描いた復元画です（第2図）。

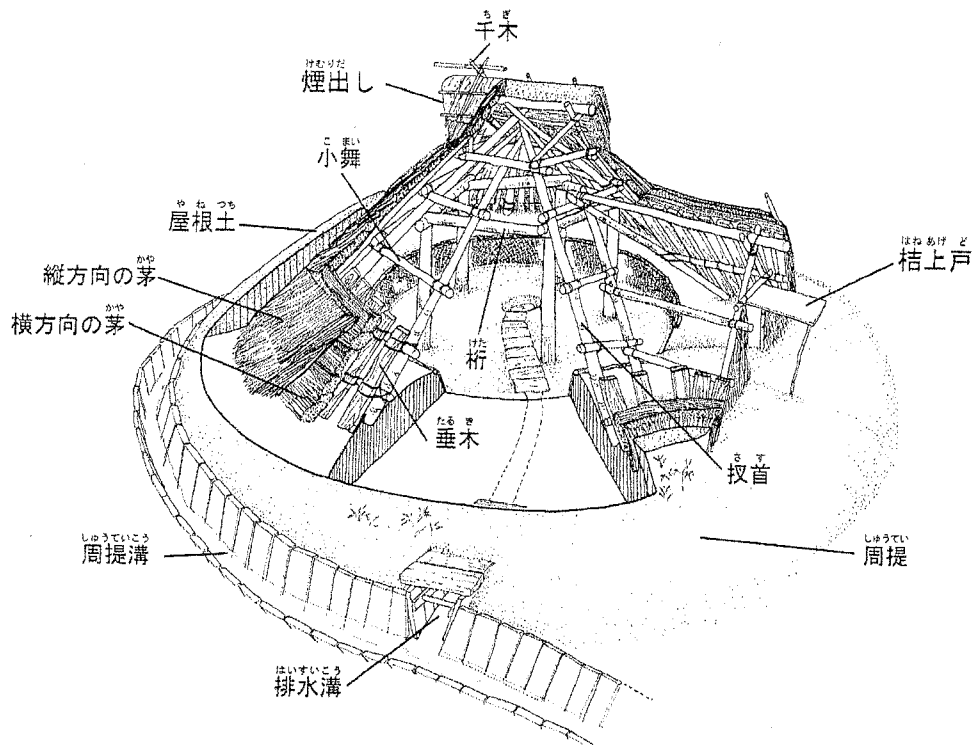
では、亀岡市に住んでいた弥生時代の人たちの生活を見ることにしましょう。



第1図 時塚遺跡で見つかった弥生時代の壺



第2図 弥生時代のムラの様子
（早川和子「よみがえる古代の日本」より）



第3図 竪穴住居の構造（鳥取県教委「弥生のすまいを探る」より）

2. 弥生時代の人々の暮らし

弥生時代の人たちは、竪穴住居と呼ばれる、カヤ葺き屋根の家に住んでいました。今と違って床はなく、地面を掘りくぼめたところに柱を立てて、屋根をかける簡易なものでした。上の図は、その構造を絵にしたものです（第3図）。実際に私たちが発掘調査をすると、建物を支えていた柱はすでに朽ちてなくなり、その後に田畑が営まれたりして、柱穴や、地面を掘りくぼめた痕跡だけがかろうじて残っている状態です。写真（第4図）の中央に、幅が20cm程度の溝が円く巡っています。これが時塚遺跡で実際にみつかった竪穴住居跡です。真ん中に、火を使ったと見られる炉の跡や、屋根を支えていた丸い柱の痕跡が見えます。



第4図 時塚遺跡で見つかった竪穴住居の跡

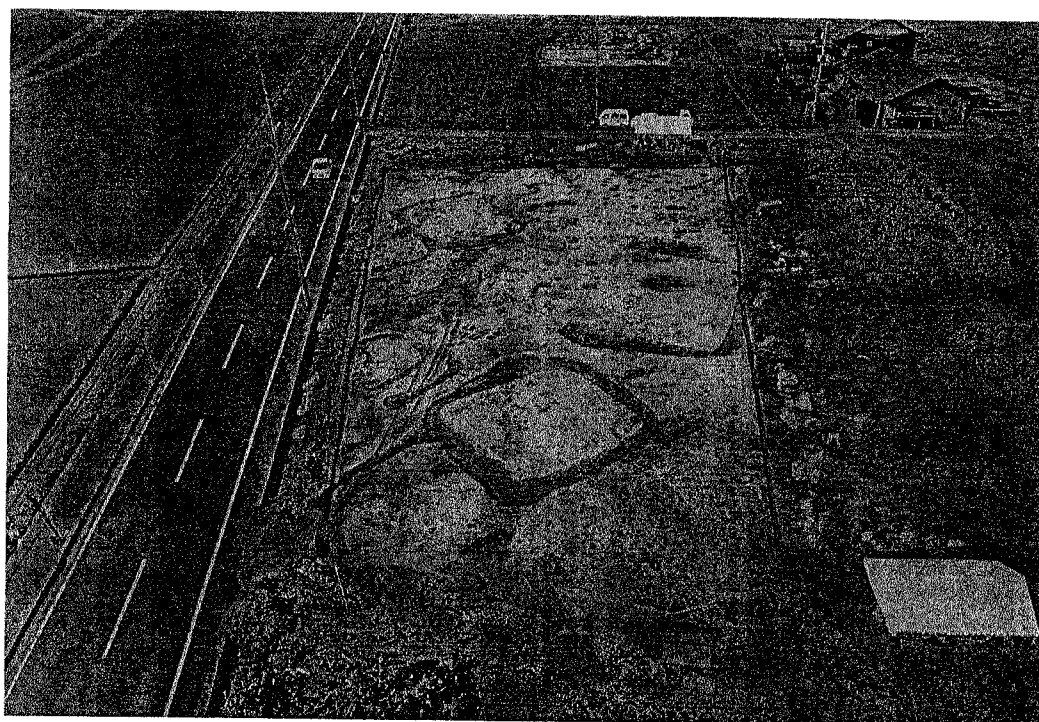
3. 弥生人のお墓

時塚遺跡の人たちは、周囲に四角く溝をめぐらせて真ん中に土を盛りあげた「方形周溝墓」というお墓に葬られました。四角の大きさは、一辺が10mに満たないものから、20mくらいのもので、いろいろでした。今のお墓を考えると大きいものです。

亡くなった人は、この四角の土盛り（墳丘）の上に埋められました。方形周溝墓はたくさん集まって墓地をつくるという特徴があります（第5図）。時塚遺跡でも、直線で約200mほどの範囲に、50基近い数のお墓が作られていることがわかりました。第6図はその一部で、四角いお墓がいくつもみつかっています。



第5図 弥生時代のお墓（兵庫県教委「玉津田中遺跡」）

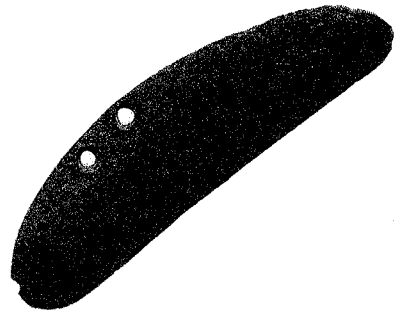


第6図 時塚遺跡で見つかった方形周溝墓

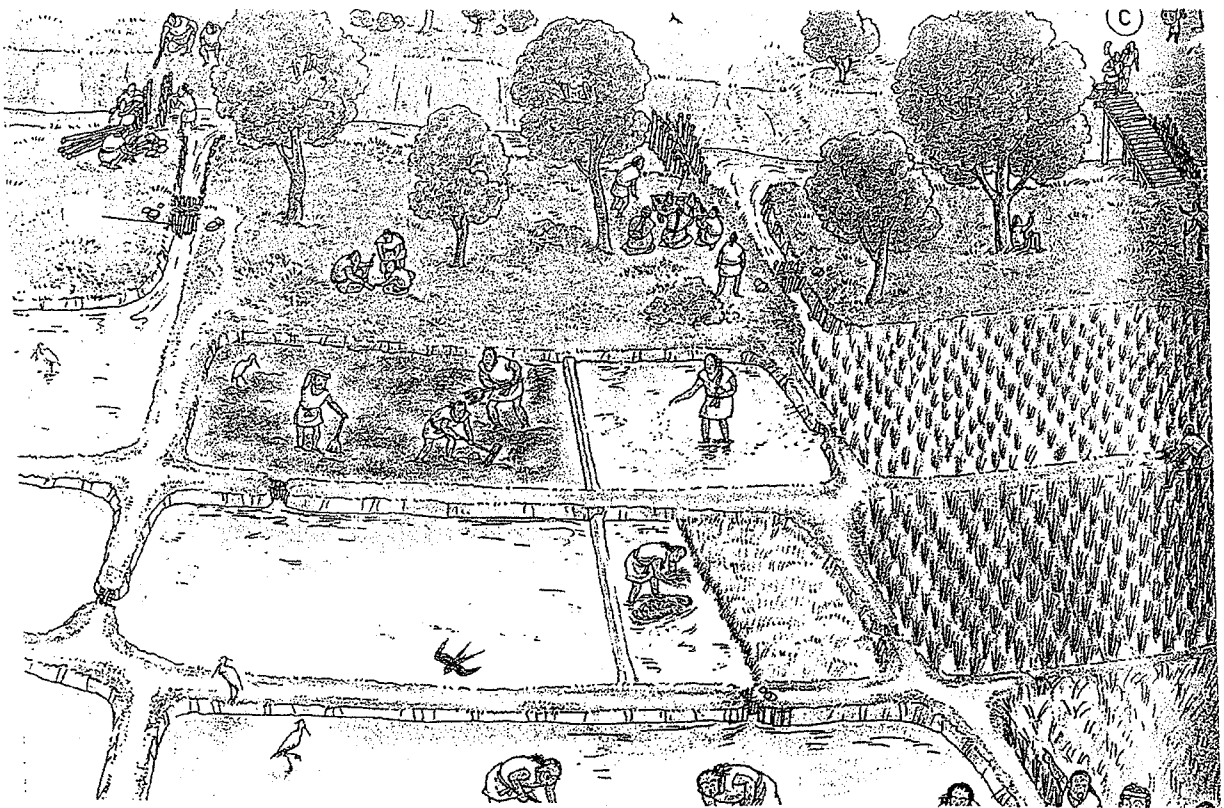
4. 弥生時代の人々の生活（1）

弥生時代は、日本で水田での米作りがはじまった時代です。時塚遺跡の調査では水田を見つけることはできませんでした。しかし、京都府内ではいくつかの遺跡で水田の跡が見つかっています。地形にあわせてアゼで区画し、小川を堰き止めて水を引くなど、高度なかんがい技術を持っていたことがわかっています（第8図）。

時塚遺跡でも、写真のように稲刈りに使った石器（石包丁^{いしぼうちよう}）が出土しています（第7図）。水田そのものは見つかりませんが、近くで水田耕作をしてお米を食べて生活していたことがわかります。



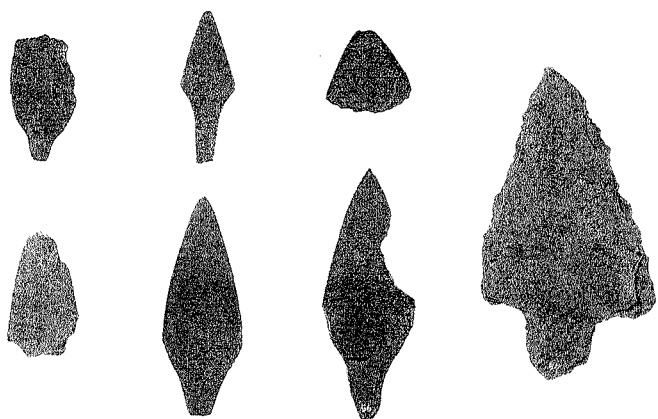
第7図 石包丁：お米を収穫する道具（時塚遺跡出土）



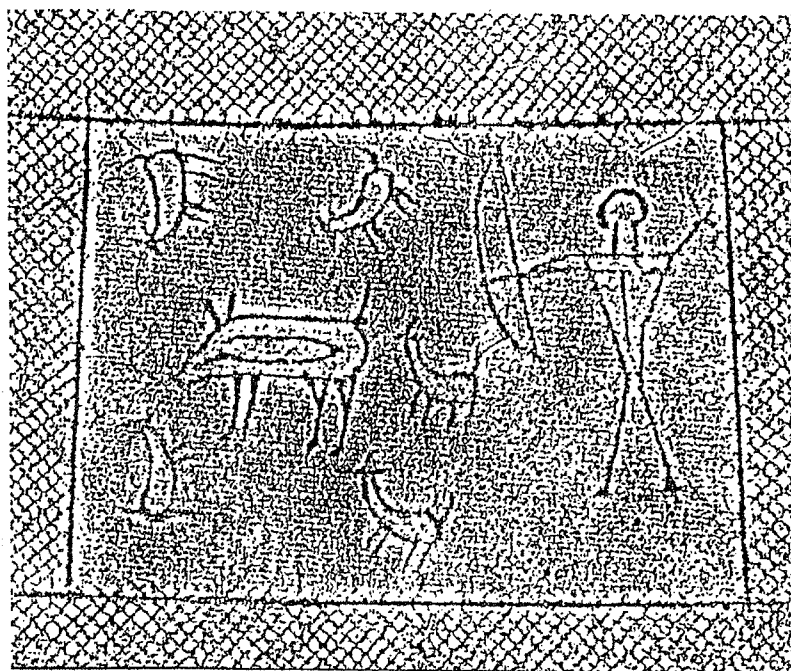
第8図 弥生時代の耕作の様子（早川和子「よみがえる古代の日本」より）

5. 弥生時代の人々の生活（2）

弥生時代の人々はもちろんお米だけ食べて生活していたわけではありません。時塚遺跡からは、狩りに使う矢の先端（矢尻^{やじり}）が見つかっています（第9図）。残念なことに、狩りの様子は、発掘調査では見つけることが困難です。しかし、弥生時代の人々が残した絵に、狩りの様子が描かれています（第10図）。これは、香川県で見つかった銅鐸^{どうたく}に描かれていたものです。右側に弓をもって立つ人がいて、左側にはイノシシを取り囲むイヌたちが描かれています。時塚遺跡の人たちもイヌと一緒に山を駆けめぐっていたのでしょうか。



第9図 石鏃・弓矢の矢尻（時塚遺跡出土）



第10図 銅鐸に描かれた狩りの様子（伝香川県出土銅鐸）

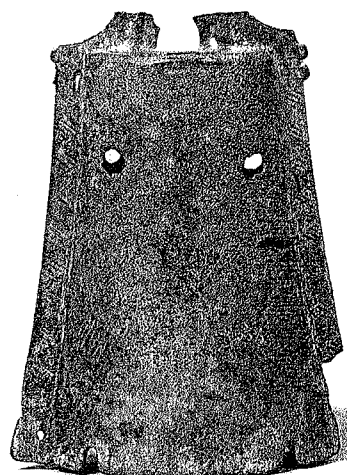
6. おわりに

時塚遺跡では、平成15年度からの4年間に14回の発掘調査が行われ、弥生時代の人々が住んでいた家の跡や、人を葬ったお墓の跡がたくさん見つかりました。特に、生活していた場所と、お墓を造った場所の両方が見つかることはあまりなく、大変貴重な成果があがりました。

弥生時代の人々の生活を支えた水田の跡は見つかりませんが、おそらく川東小学校の東側に広がっていたと考えられます。時塚遺跡は集落としても大きく、たくさんの方が暮らしていたようですので、もしかしたら銅鐸も持っていたかもしれません。丹波地域で時塚遺跡にもっとも近い所で発見された銅鐸は、旧京北町で見つかり、^{しもゆげ}下弓削銅鐸です(第11図)。いつか時塚遺跡の近くでも見つかるかもしれません。

この他にも、馬路町の池尻遺跡で時塚遺跡より少し古い時期の弥生時代のお墓が、千歳町の出雲遺跡や蔵垣内遺跡では、時塚遺跡よりも少し後の竪穴住居が見つかり、時塚遺跡に住んでいた人たちは100年たたない間に、その地を去りましたが、その後も亀岡にはたくさんの方が住み続けたことがわかっています。

最後に、時塚遺跡の発掘調査に参加していただいた方々、協力していただいた方々に厚く御礼申し上げます。



第11図 旧京北町で見つかった下弓削銅鐸



第12図 時塚遺跡でおこなわれた現地説明会の様子

古墳時代の成果

亀岡市教育委員会社会教育課

主任 中澤 勝

1. 古墳時代とは？

古墳時代、それは『古墳がつくられていた時代』です。高塚の墓は弥生時代にも造られますが、卑弥呼の頃から古墳時代と呼びます。また、飛鳥時代（7世紀）にも古墳は造られていますが、これを終末期古墳と呼んでいます。

亀岡市内にも800を超える古墳がつくられています。そして、その形や大きさ、また副葬品などから当時の社会の仕組みなどを明らかにしてくれます。

2. これまでの調査でわかったこと

保津川東岸地域ではたんぼの中にポツンと塚を目にすることがあります。それは、千歳車塚古墳（国史跡）・坊主塚古墳・保津車塚古墳の姿で、これまでに発掘調査が行われています。

（1）坊主塚古墳（5世紀後半・一辺約68mの方墳・二重周濠）

坊主塚古墳の埋葬施設は木棺直葬^{もつかんじきそう}で、棺の中には鏡・武具類・武器類が納められていました。また、墳丘の南辺に造出しがあり、そこには円筒埴輪とともに鳥の埴輪が、さらにその正面にあたる周濠間の堤のところには馬や人の埴輪が、そして堤の南東隅には盾持ち人の埴輪^{たて}が立てられていたようです（第3図・第5図）。

（2）千歳車塚古墳（6世紀前半・全長約130mの前方後円墳・二重周濠）

千歳車塚古墳は墳丘の全長が約80mで、周囲のたんぼの形状は周濠の痕跡を残しています。二重目の周濠は西側でみつけられました。周濠間の堤の幅は約8mですが、くびれ部の正面にあたる約25mにわたって約11mと広がっており、その空間には巫女の埴輪^{みこ}がたてられていたようです（第12図・第13図）。

3. 今回の調査でわかったこと

千歳車塚古墳・坊主塚古墳・保津車塚古墳の現在の姿をみると面白いことがわかります。千歳車塚古墳の場合、周濠の形がたんぼの形として残っていますが、坊主塚古墳は周濠の痕跡を地上にみることはできません。また、保津車塚古墳はその名前から前方後円墳と思われそうですが、今は円墳の姿しかみることはできないのです。

そして、今回の調査では塚の部分が完全に壊されていたために、調査によってこれまで知られていなかった古墳がたくさんみつかりました。

(1) 出雲武式古墳（4世紀後半・直径約23mの円墳・周濠）

出雲武式古墳では墳丘へと通じる通路がみつかり、その側の周濠の中から「石釧」と呼ばれる腕輪形石製品がみつかりました。腕輪形石製品は丹波地域では南丹市の垣内古墳（前方後円墳、墳丘の全長約82m）、亀岡市篠町の向山古墳（円墳、直径30m以上）に次いで3例目です（第2図）。

(2) 時塚古墳群（5世紀後半～6世紀前半・方墳13基・円墳3基・周濠）

時塚古墳群の中で注目されるのは1号墳です。1号墳は一辺約35mで、造出しで埋葬施設がみつかり、そこには武器・馬具・農耕具が納められていました。さらに周濠の東隅からは盾持ち人・人物・甲冑・盾の埴輪などがみつかり、特に盾持ち人の埴輪（高さ約60cm）は頭部を立体的に表現せず、盾と頭を一体の板状で表現したもので、全国でも例がありません。1号墳（5世紀後半）・2号墳（5世紀末）・3号墳（6世紀前半）は他の古墳と離れて築かれていることから考えると、3基の古墳の主は当地域をまとめた各時代の首長であり、他の古墳は彼らを支えた人々の墓と考えられます（第1図・第4図）。

(3) 中古墳群（5世紀後半～6世紀前半・方墳6基・周濠）

6基の古墳の中で最も大きなものは5世紀後半頃に築かれた1号墳で、一辺が約43mです。その北側の古墳をみると、時代が進むにつれて徐々に古墳の規模が小さくなっていく状況がわかります。また、最も小さな2号墳の周濠の中からは、須恵器が納められた当時のままの状況でみつかりました（第6図）。

(4) 国分西古墳群（5世紀後半～6世紀前半・方墳6基・周濠）

1号墳を除くと、部分的にみつかったものであることから、詳しいことはわかりませんが、6号墳は周濠の幅が約2.6mと広いことから、最も大きな古墳である可能性が考えられます。なお、ここから北西へ約1kmのところ、丹波国分寺の僧坊跡のところでは5世紀後半頃の埴輪がみつかりました（第7図）。

(5) 保津車塚古墳（5世紀末・全長約54mの前方後円墳・二重周濠）

保津車塚古墳は調査によって前方部がみつかりました。そして墳丘の上には埴輪

ではなく、盾などの形をした木製の埴輪だけが立てられていたことがわかりました。こうした木製の埴輪は丹波地域では南丹市塚本古墳^{つかもとこふん}に次いで2例目ですが、盾の形をしたものはこれが初めてです（第8図・第9図）。

これらの他にも、国分古墳群^{こくぶんこふんぐん}（6世紀後半～7世紀中頃）では新たに37基の古墳がみつかったことから、その数は60基となり、保津川東岸地域最大の古墳群であることがわかりました。その内24基が調査されましたが、特に45号墳は7世紀中頃に築かれた八角形の古墳であることがわかりました。八角形墳は天皇陵に一番多く、官人層の墓に使われたと考えられています。群集墳の中に築かれていることから、中央との強いパイプをもった有力者の墓であったと考えられています。

4. おわりに

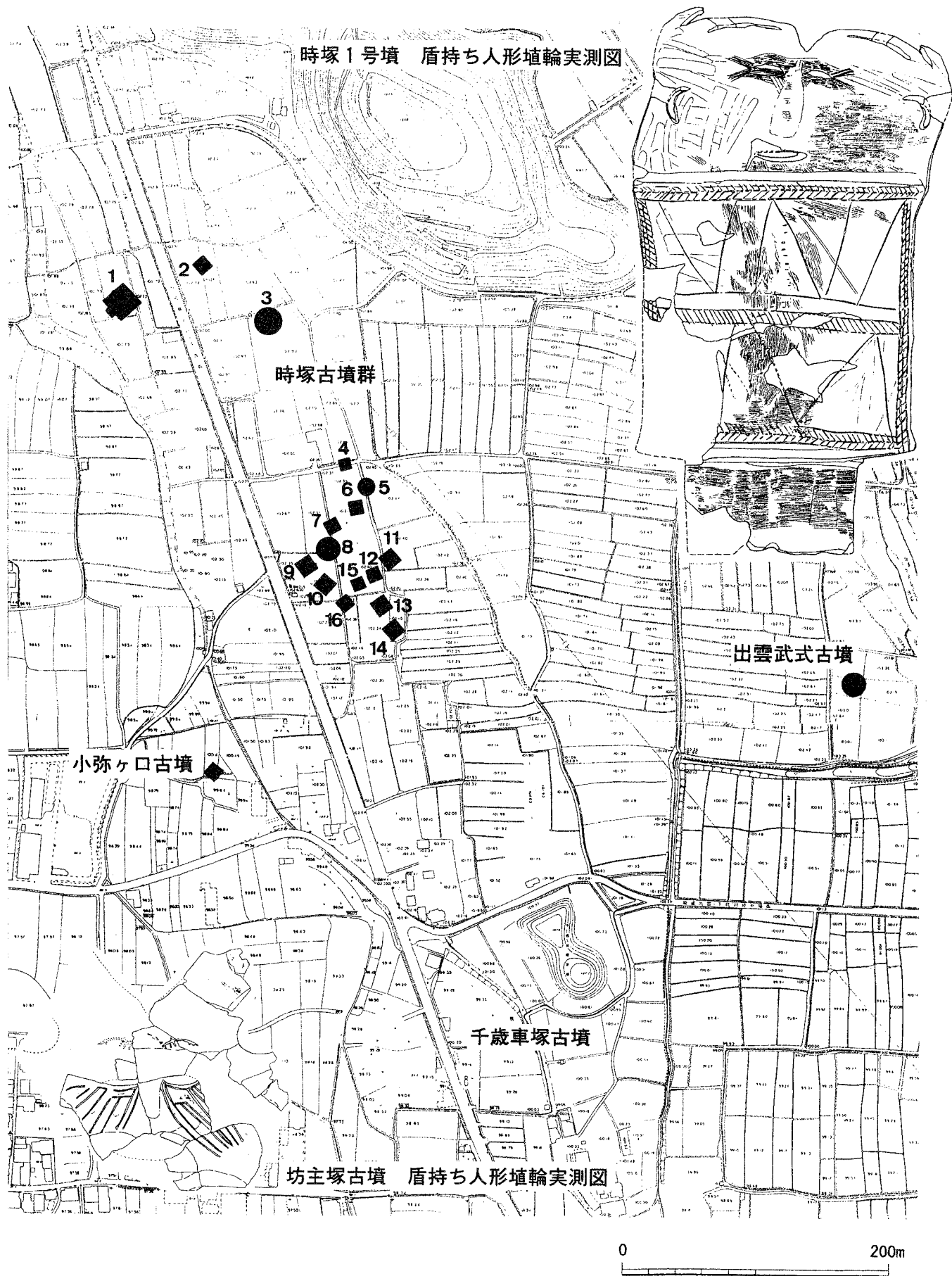
国営農地再編整備事業の発掘調査では67基の古墳がみつき、54基の古墳の調査を行いました。最後に、これらの成果をもとにこの地域がどのようにしてまとまっていたのか、その社会の仕組みを時代毎に考えてみましょう（第14図）。

○古墳時代前期（4世紀後半） 垣内古墳の主が南丹波地域の最高首長の座に付き、そのもとで峠＝道を治めた向山古墳の主の姿がみえてきます。また、保津山東1号墳^{ほつやまひがし}（前方後円墳・全長約60m）もこの時期の可能性が考えられ、そうすると、川（保津川）を治めた主の姿もみえてきます。出雲武式古墳の主は、古墳の規模が小さいことから、彼らのもとでパイプ役として力を発揮したのでしょう。

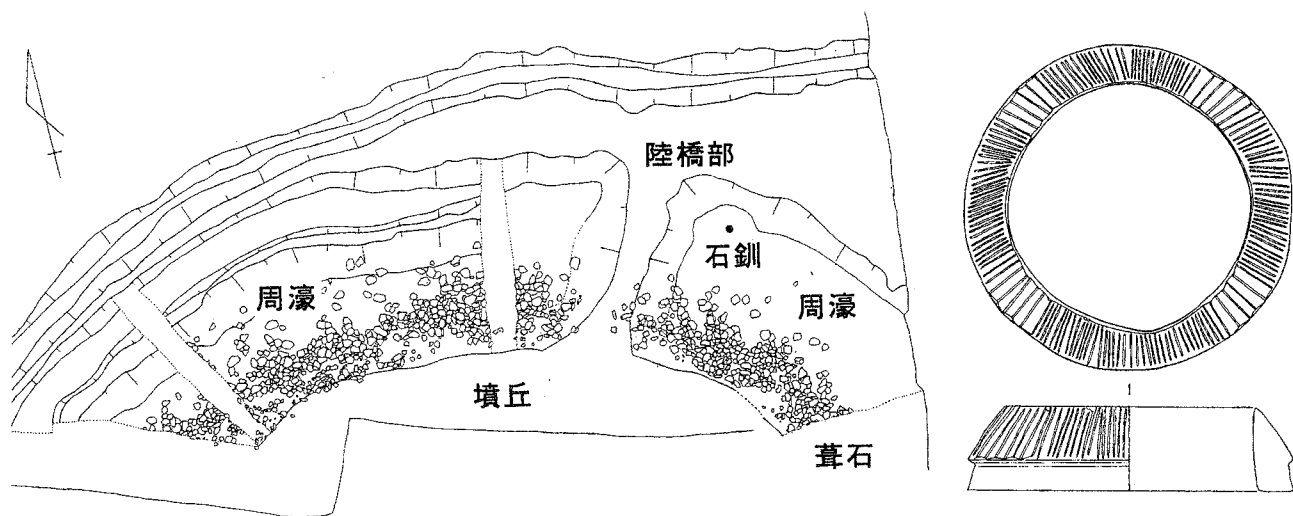
○古墳時代中期（5世紀後半） この時期にこの地域の最高首長の座に付いたのは、坊主塚古墳の主です。そして地域のまとまりをより強固なものにするために、小地域毎に治めていったものと思われれます。その役を担ったのが時塚1号墳・中1号墳・国分6号墳であり、その周囲の古墳は彼らを支えた構成員の墓でしょう。そして、坊主塚古墳のあとを受け継いだのが保津車塚古墳の主と思われれます。

○古墳時代後期（6世紀前半） この時期に突如、巨大な姿を現すのが千歳車塚古墳です。それは前期の垣内古墳同様、南丹波の王の姿をみるようです。そして、これを補佐したのが、石堂古墳^{いしどうこふん}（全長約35mの前方後円墳、第10図・第11図）と思われれます。そして、この時期から、時塚古墳群は方墳から円墳へと形が変わり、中古墳群の規模は極端に小さくなります。この変化は、千歳車塚古墳の主が社会に影響をもたらしたものと思われれます。

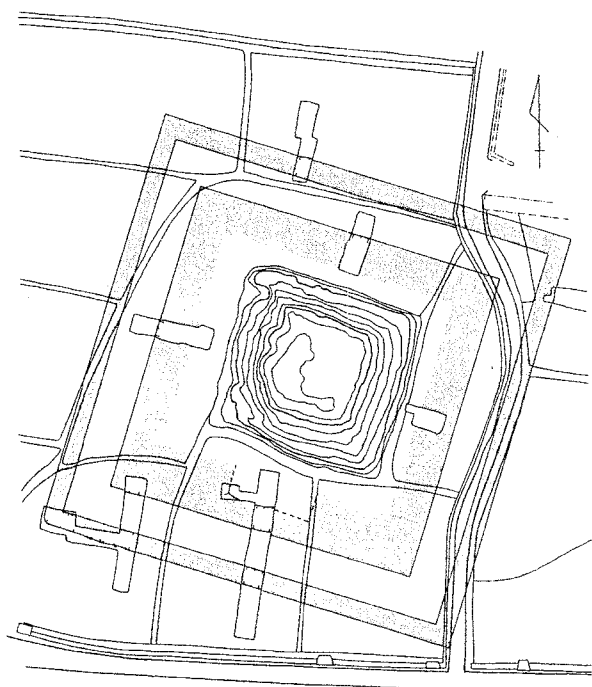
以上のように、古墳のあり方から保津川東岸の様子を考えてみました。このように考えていくと、倭政権^{やまと}と深い関係を持ちながら、当地域の豪族たちのたくましい姿が目に見えてくるようです。



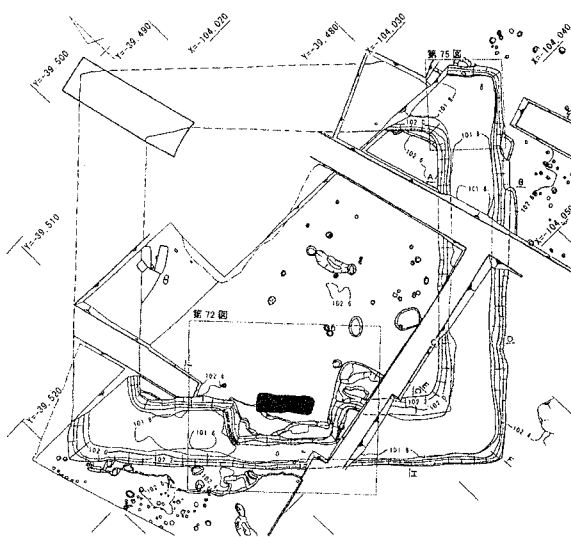
第1図 時塚古墳群・出雲武式古墳・小弥ヶ口古墳・千歳車塚古墳



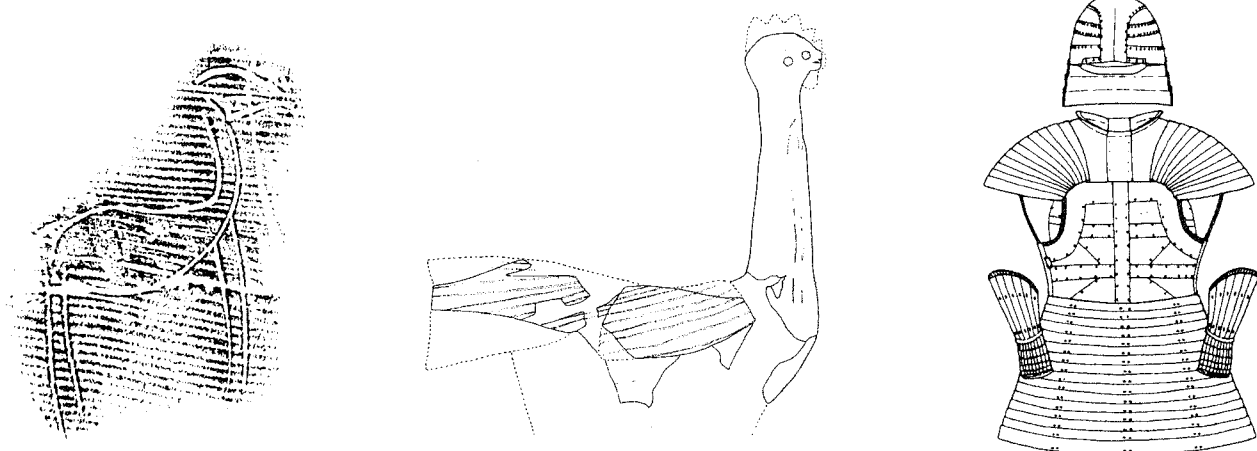
第2図 出雲武式古墳（円墳・直径約23m）と石釧（径8.6cm）



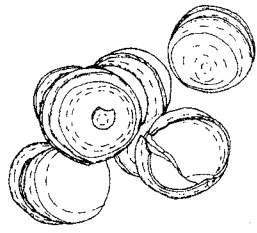
第3図 坊主塚古墳（方墳・一辺約68m）



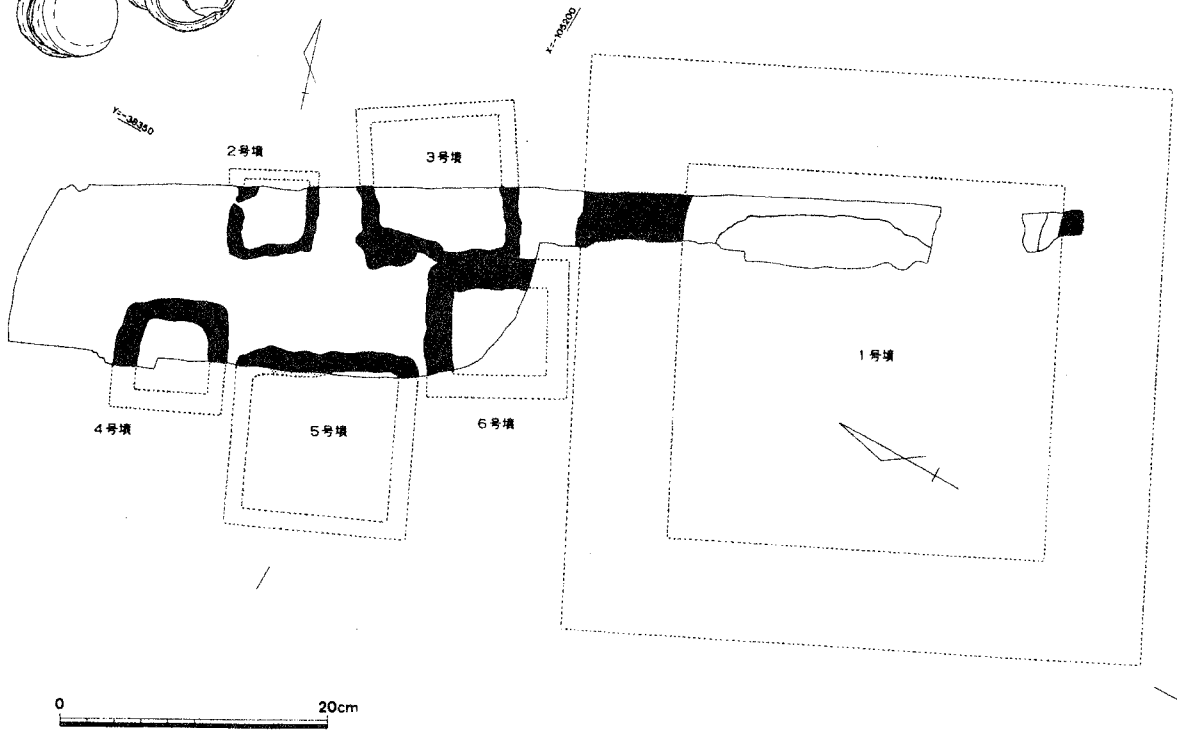
第4図 時塚1号墳（方墳・一辺約35m）



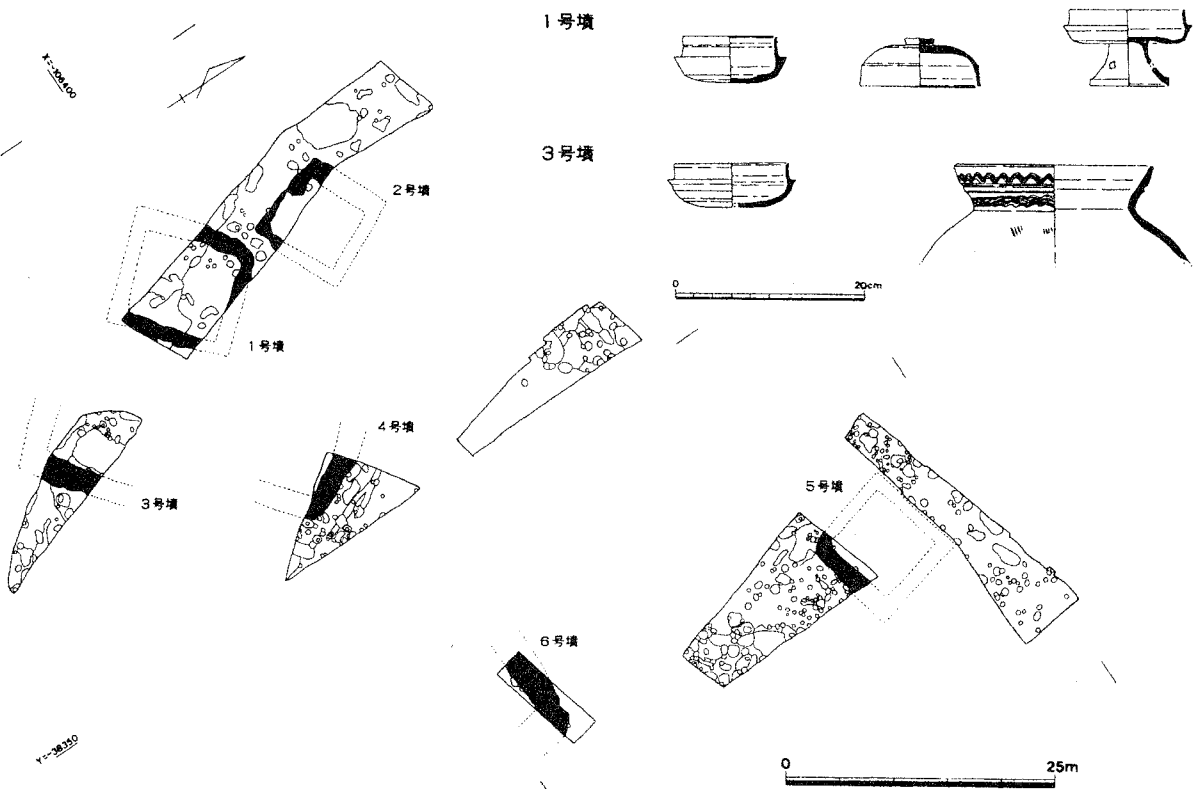
第5図 坊主塚古墳出土遺物（埴輪に描かれた鹿の絵・鳥形埴輪・甲冑）



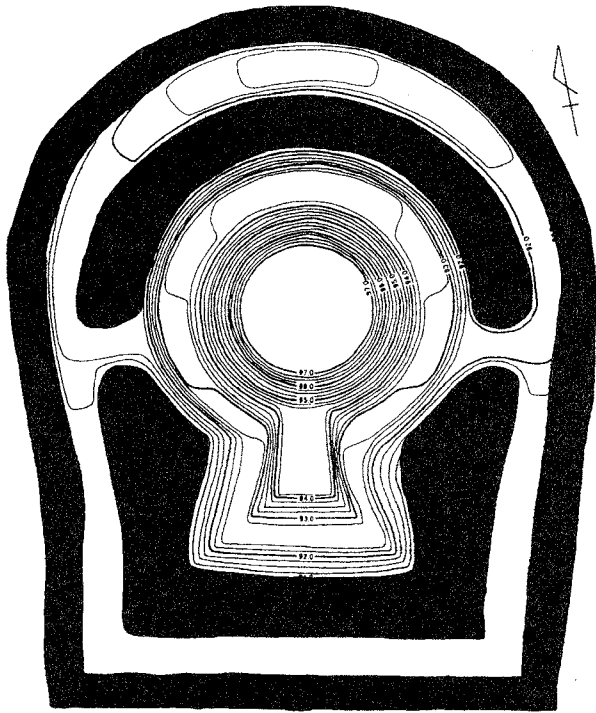
2号墳 須恵器出土状況



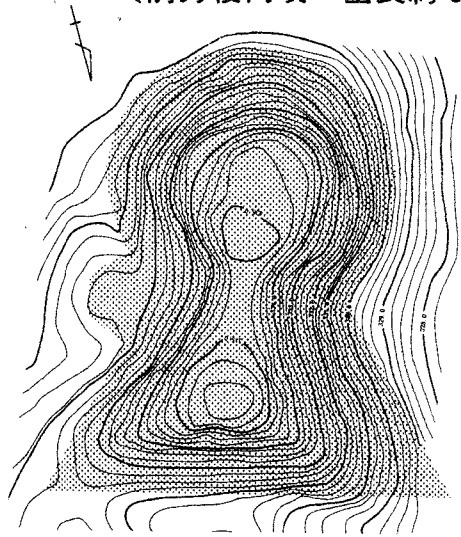
第6図 中古墳群



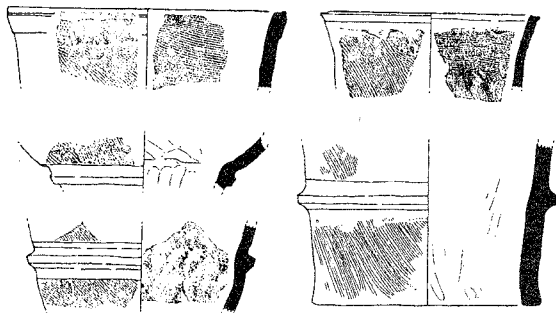
第7図 国分西古墳群



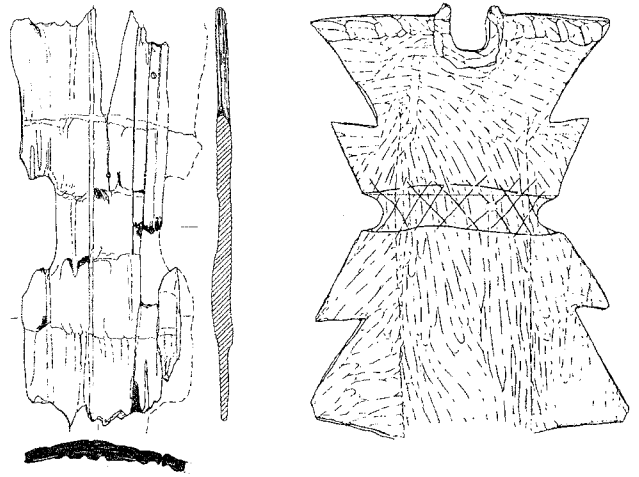
第8図 保津車塚古墳
(前方後円墳・全長約 52.7m)



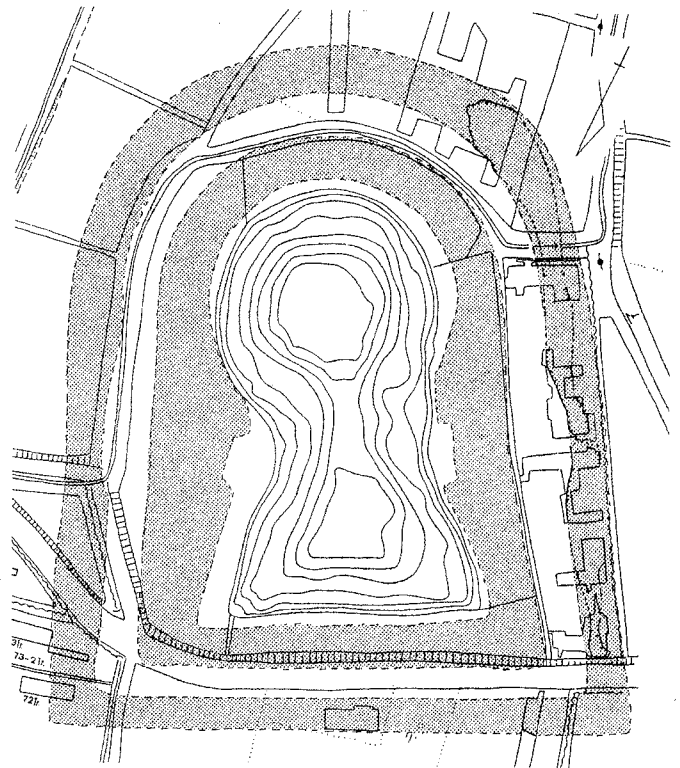
第10図 石堂古墳
(前方後円墳・全長約 35m)



第11図 石堂古墳の埴輪 (縮尺8分の1)



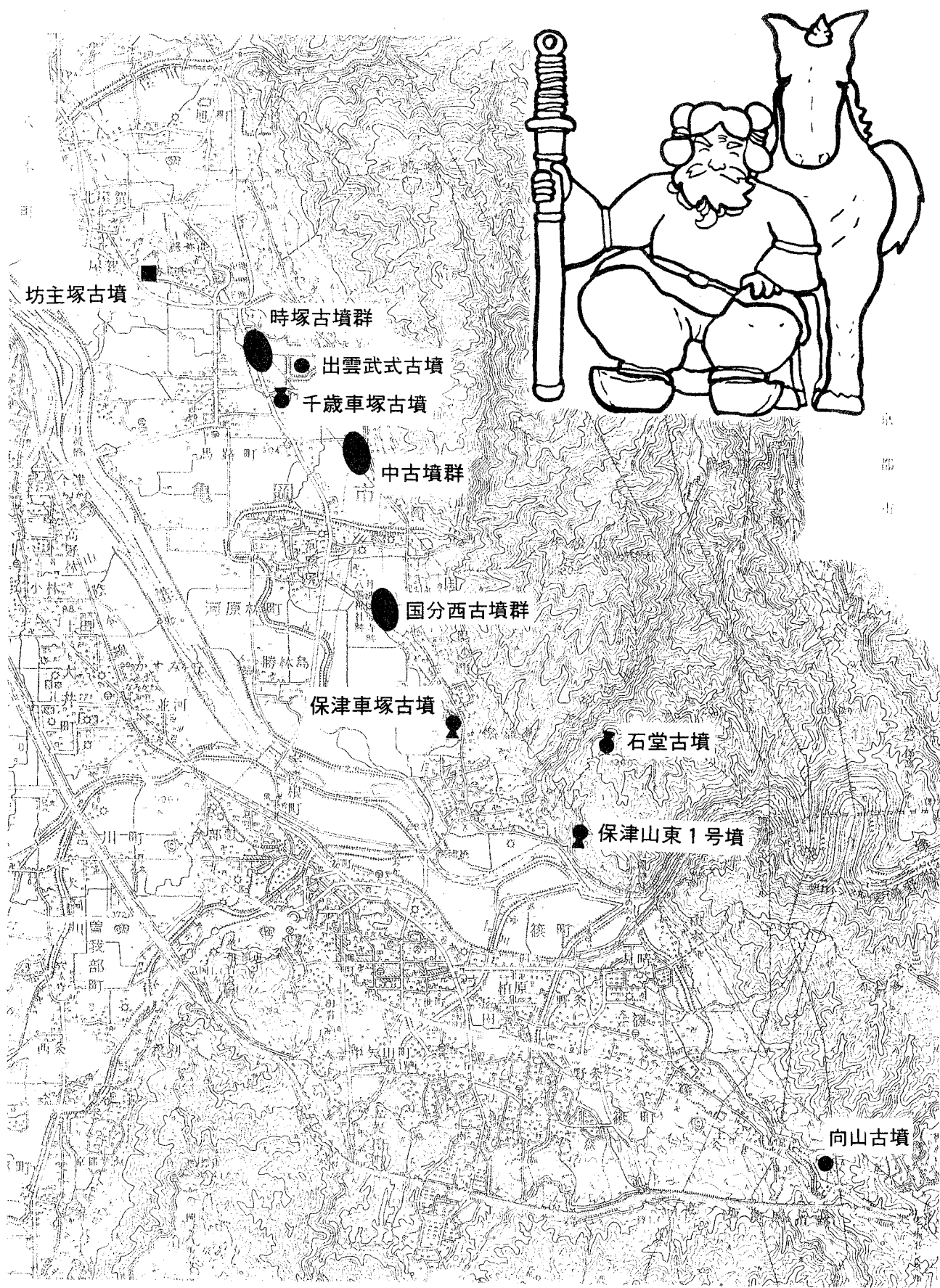
第9図 盾形の木製埴輪 (全長約 90cm)
と盾形埴輪〈長岡京市塚本古墳〉



第12図 千歳車塚古墳
(前方後円墳・全長約 130m)



第13図 千歳車塚古墳の人物埴輪
(縮尺4分の1)



第14図 保津川東岸の首長墓

歴史時代の成果

(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

調査員 石崎 善久

1. はじめに

歴史時代とは「文献や記録によって過去の人びとの社会や文化を知ることのできる時代。日本では6世紀後半以降をいう」とされていますが、遺跡の発掘調査により文献には残されていない、様々な歴史が明らかになってきました。ここでは、奈良時代から平安時代にかけての考古学的な成果をもとに、どのようなことが分かったのか記していきたいと思います。

2. 奈良～平安時代の遺跡

亀岡市を含む丹波国は本来、丹後地域や兵庫丹波までを含む広い範囲を示していましたが、奈良時代初頭、和銅6年(713)に丹後国と分国されました。

この時期の政治構造の特徴として、中央の奈良(大和朝廷)の下に、丹波国などの大きな地方行政単位が置かれ、さらにその下に郡や里・郷といった小さな行政単位をおくことにより全国支配をおこなうシステムである、いわゆる律令制が整備されていた時代です。(律は刑法、令は行政法のようなもの)

従来、丹波国の中央官庁である丹波国府推定地は現在の千代川町(京都縦貫道千代川インター)付近の千代川遺跡が有力な候補地として挙げられてきました。しかしながら、1980年代に実施された、縦貫道関係の発掘調査では、明確に国府であることを示すような遺構・遺物は見つかりませんでした。また、八木町屋賀に置かれたという説も根強く、具体的な様相は分かっていませんでした。

ここ、近年の、国営農地再編整備事業関連の遺跡調査により、保津川東岸の具体的な事例が明らかになりつつあり、従来の歴史時代に対する認識も改める必要が出

てきたといえます。以下、具体的に遺跡を挙げて検討をしてみたいと思います。

(1) 蔵垣内遺跡・丹波国分寺・三日市遺跡

丹波国分寺は、741年、聖武天皇が発した国分寺建立の詔以後、各国に建立されていった寺院の一つです。国分寺は、国分尼寺とともに各国の中心に建てられ、その地域を支配する要としての役割を果たしていたものとみられます。蔵垣内遺跡は国分寺の南方部分で大型の掘立柱建物跡が確認されました。

この国分寺の瓦を焼いたとみられる遺跡が、三日市遺跡です。この遺跡では、丹波国分寺創建時の瓦2種が焼成されていたほか、墨書土器などが出土しました。

(2) 河原尻遺跡

河原尻遺跡では国分尼寺こくぶんにじの南に位置する遺跡です。ここでは、奈良時代の掘立柱建物のほか、同時期の竪穴式住居が見つかっています。

(4) 馬路遺跡

馬路遺跡では、平安時代の大型建物が見つかっています。建物配置から一般集落とは考えられず、役所などに関係する遺跡の可能性ががあります。

(5) 車塚遺跡

車塚遺跡では、奈良時代後半、国分寺とほぼ同時期の大型建物が見つかりました。また、三日市遺跡で焼かれたとみられる瓦が見つかっています。やはり、一般集落とは異なり、役所的な施設であったとみられます。

(6) 時塚遺跡

時塚遺跡では奈良～平安時代の大型建物群が見つかりました。詳細な時期は検討中ですが、大部分は奈良時代後期以降のものとみられます。なかには、倉庫とみられる建物群が多数存在し、税が納められた倉庫群の可能性ががあります。また、遺跡北端の調査ではやはり、三日市遺跡で作られたとみられる瓦が出土しています。

(7) 池尻遺跡・池尻廃寺

池尻廃寺は、奈良時代初頭頃の寺院の可能性のある遺跡です。多数の瓦と礎石建物そせきたてもの、瓦積み基壇かわらづきだんなどが見つかっています。周辺の池尻遺跡では、奈良時代前半の大規模

な^まく、もしくは^{いたべい}板塀に囲まれたとみられる大型建物群が見つかっています。この状況から一般的な集落ではなく、やはり役所である可能性が高いものとみられます。とくに複数の区画が存在することから、丹波国府の可能性が高いものと考えています。

また、調査地点は離れますが、古代の道路側溝とみられる遺構も見つかっています。

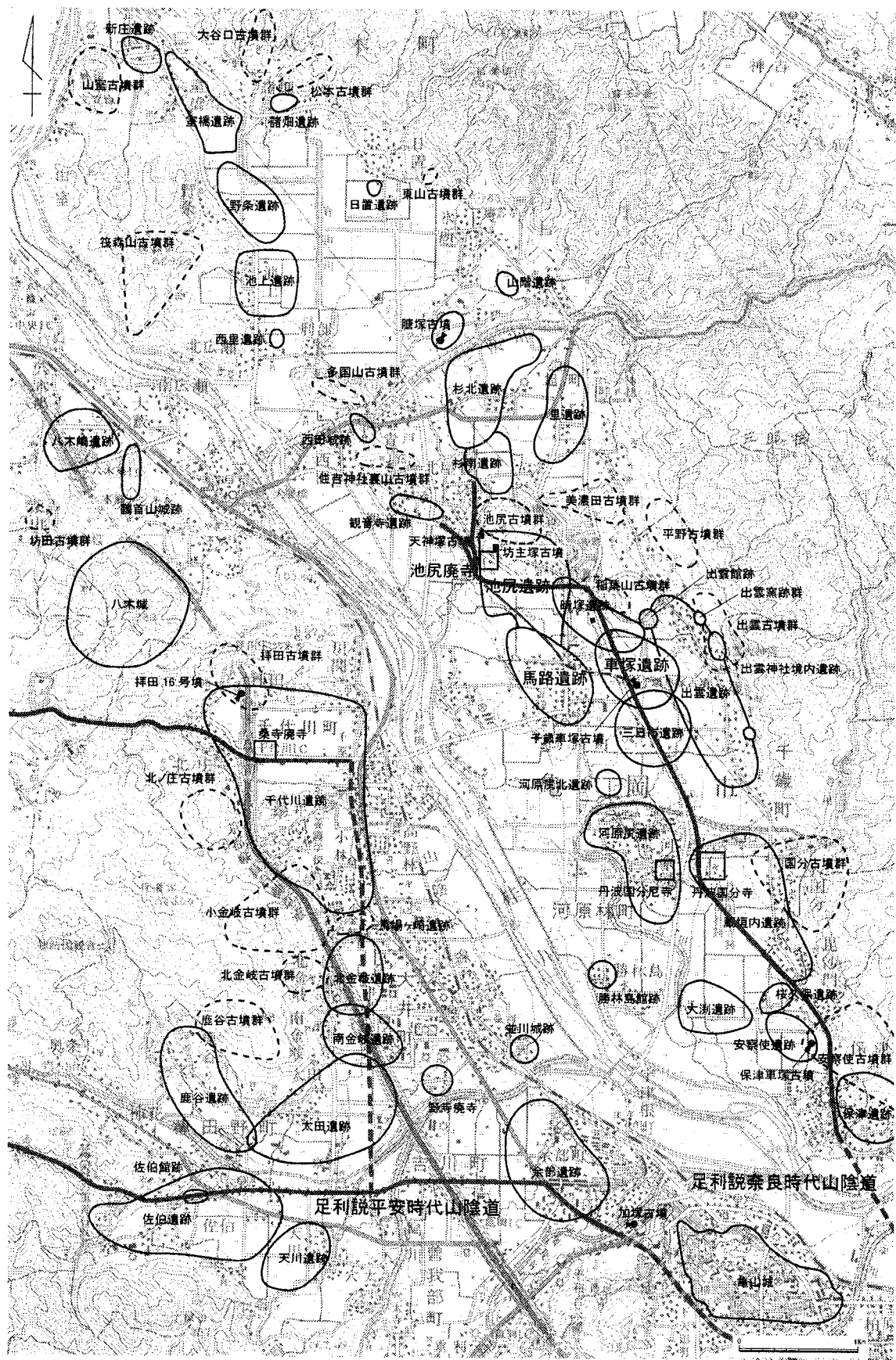
3. 山陰道と古代遺跡

さて、以上のように、この地域では、奈良―平安時代にかけての寺院・役所が密集する地域であることが明らかとなってきました。特に、国分寺造営を境におおむね2時期に分けてみるができると思われます。これは律令国家の干渉により行われた可能性があると考えています。

では、なぜこの地域にこのように役所や寺院が集中しているのでしょうか。

詳細な検討は今後の課題ではありますが、その理由の一つに、この地域に故足利健亮氏の想定された、古代^{さんいんどう}山陰道が通っていたとみられることが挙げられます。^{きない}畿内の政権中枢部からみてこの地域は丹波と畿内とのまさに境であり、交通の要であったといえるでしょう。そのため、この地域に政権と直結する役所群や、寺院を置く必要があったのではないのでしょうか。

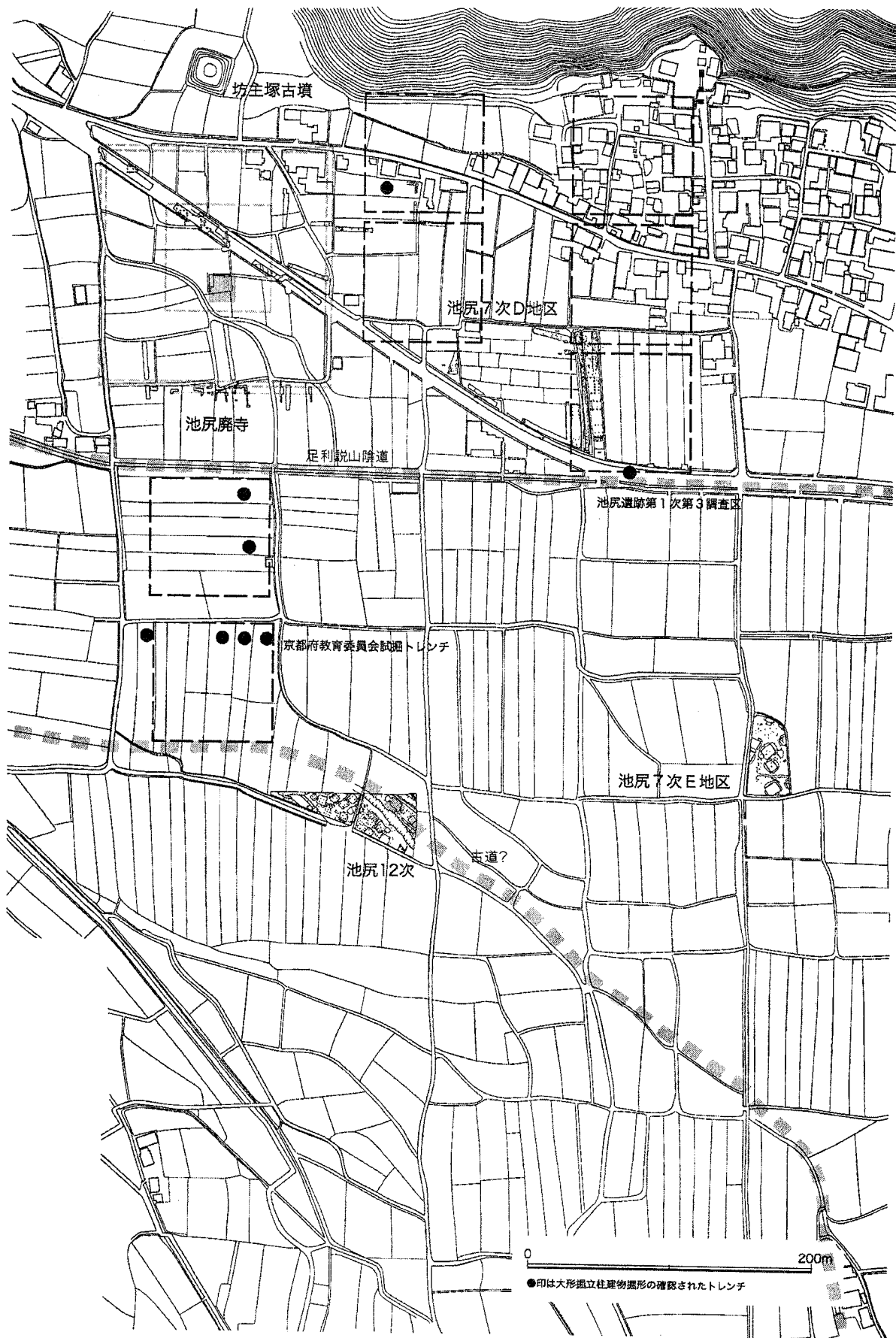
いずれにせよ、この保津川東岸にこのように重要な遺跡が埋もれていたのは予想外であり、今後の丹波国を考える上で貴重な成果を提示したものといえるでしょう。



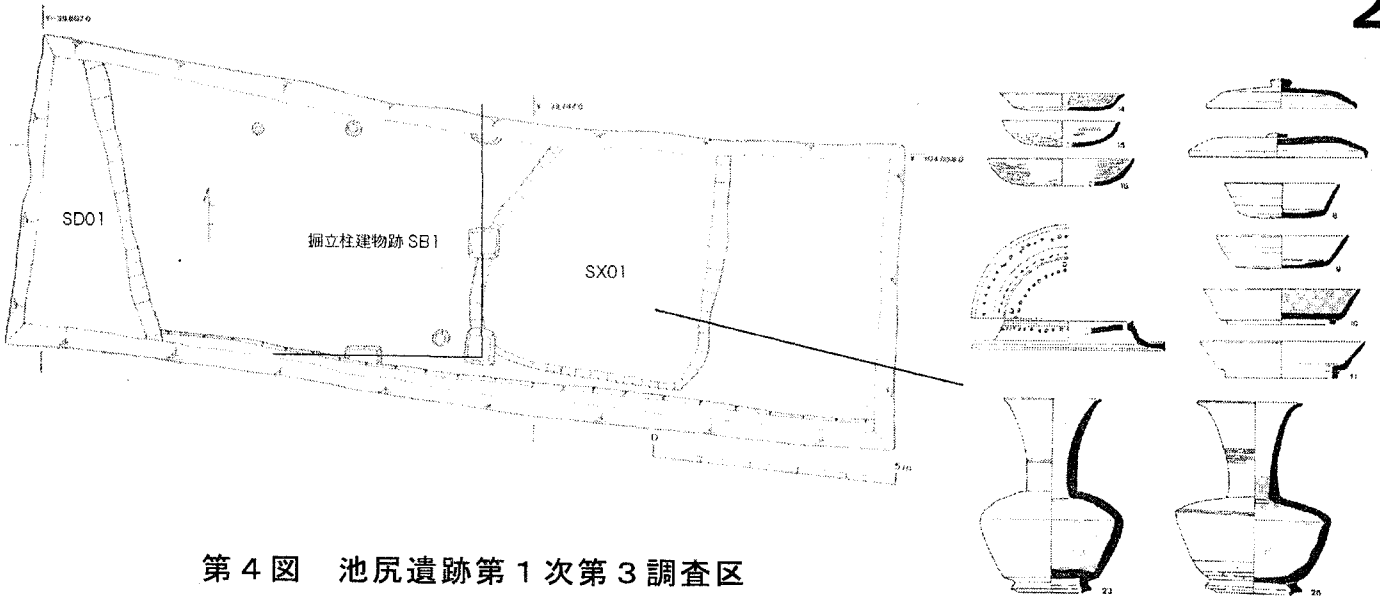
第1図 主要遺跡分布図(1/50,000)



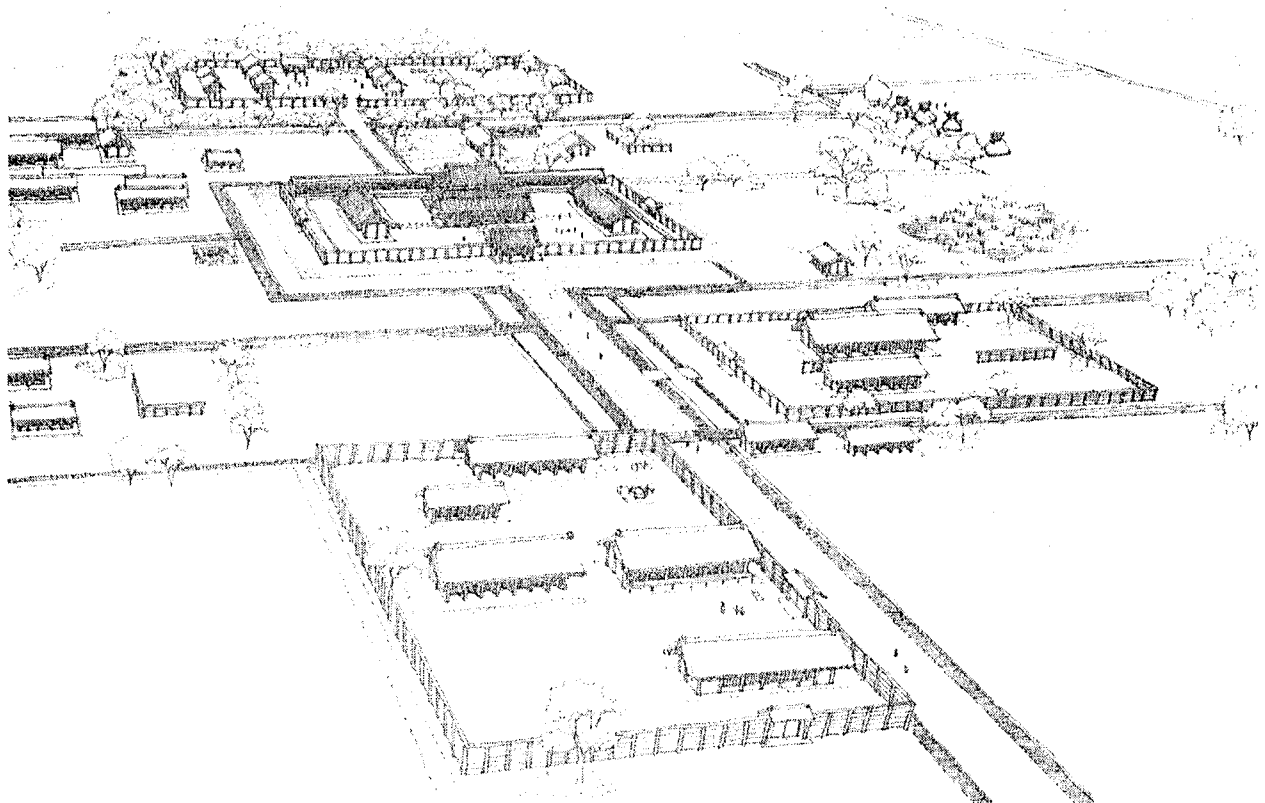
第2図 池尻遺跡・時塚遺跡・馬路遺跡・車塚遺跡・三日市遺跡調査区配置図



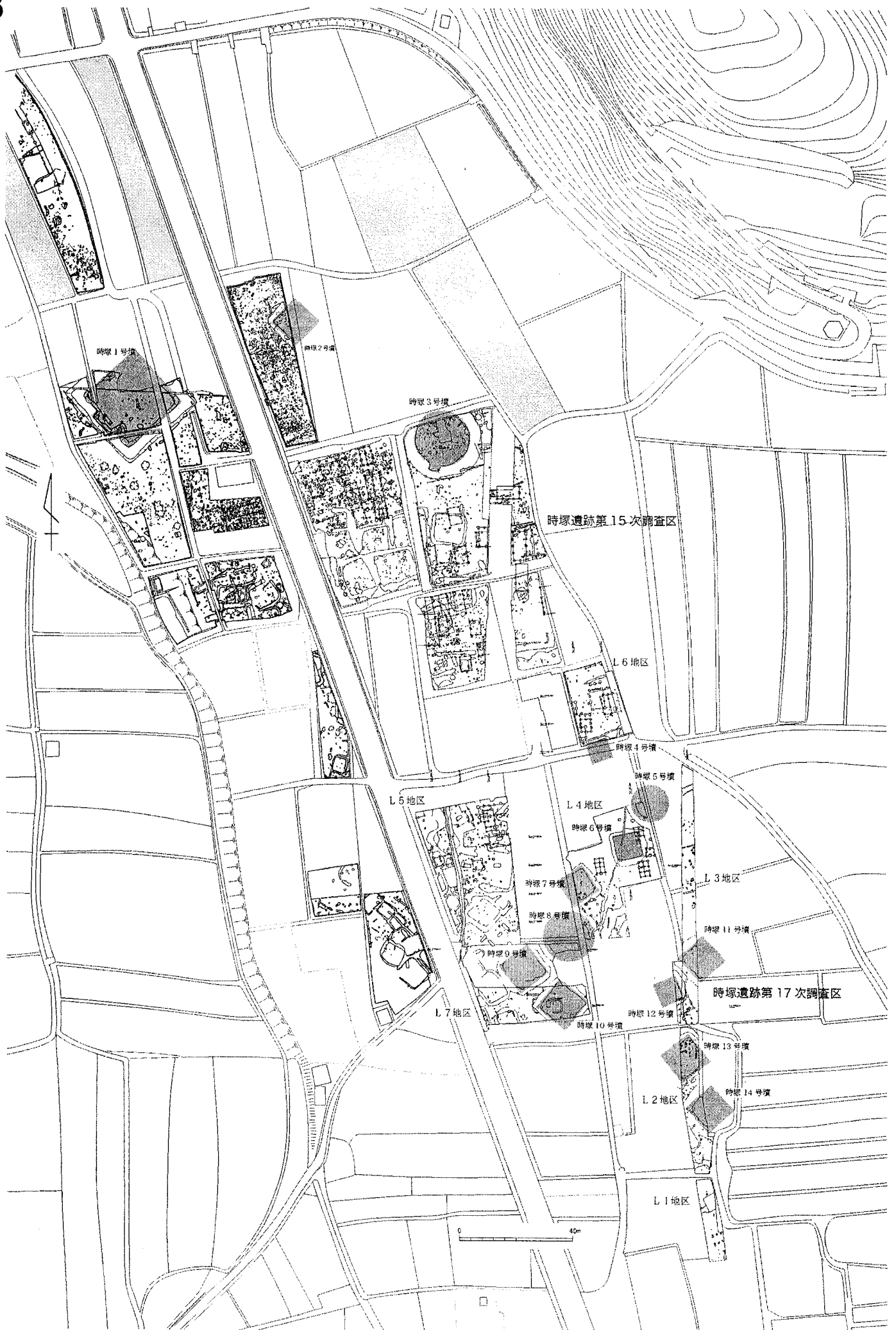
第3図 池尻遺跡周辺図および方形区画想定図



第4図 池尻遺跡第1次第3調査区
 (『京都府遺跡調査概報』第48冊 1992年)



第5図 下野国府の復元図
 (山中敏史・佐藤興治 『古代の役所』 岩波書店 1985年)



第6図 時塚遺跡調査区全体図

(財)京都府埋蔵文化財調査研究センターの現地説明会や埋蔵文化財セミナーなどは、下記のホームページでもご案内しています。

<http://www.kyotofu-maibun.or.jp/>

(財)京都府埋蔵文化財調査センター
〒617-0002 向日市寺戸町南垣内40番の3
Tel (075) 933-3877 (代) FAX (075)922-1189